

## 第4回新しい学校づくり阿南市地域協議会議事録

### 議 事

- (1) 新しい学校の教育の基本方針について
- (2) 新しい学校の設置学科等について

### 「第3回新しい学校づくり阿南市地域協議会における論点整理」について

#### 委員

「その他」の最後の意見「中高一貫教育校の導入にあたっては、今回のご意見を参考にしながら、別組織を立ち上げて十分に検討していきたい。」は、委員からでたものですか。

#### 事務局

委員からではなく、教育委員会からでたものです。事務局でそのことについて協議しましたが、論点整理として、地域協議会とは別の組織を立ち上げて検討していくということを整理しておいた方がよいということでもとめてあります。

#### 委員

新しく立ち上げる別の組織として、具体的な案はありますか。

#### 県教育委員会

設置校がまだ決まっていない状況ですが、教育内容について具体的に検討していくに当たっては、設置校の伝統や教育環境を考えていかなければならないので、設置校の先生方や地元の関係者の方に委員をお願いして、協議したいと考えております。

### 教育の基本方針 「目指す学校像」、「育てたい生徒像」について

#### 委員

「目指す学校像」、「育てたい生徒像」について、ご意見をお願いします。

#### 委員

ここで議論するまでもなく、「目指す学校像」、「育てたい生徒像」は、各学校の経営方針でうたわれているのではないかと思います。また、それを具体的に進めていくことは、教職員の資質とか指導力に関係してくるのではないのでしょうか。実際に現場の学校の先生方が、どういうふうに取り扱って、どうやって実現しようかというところに係っているのではないかと思います。

#### 委員

おっしゃるとおりで、ここに書かれている「目指す学校像」、「育てたい生徒像」を否定する学校はないと考えます。ただ、もう少し新しい学校の理念が感じられるものがほしいと思います。

#### 委員

この案からは、阿南市はこれだというのが見えにくいと思います。これでは、小松島市でも使えるので、これが新しい学校の特徴であるという何かがあってもいいのではないのでしょうか。

#### 委員

もっと具体的なこと、特色ある学校、特色ある教育ということについては、次の機会に議論していくことにしたいと考えています。

委員

次の機会に、新しい学校の特色について協議するのですか。

事務局

まず、「目指す学校像」、「育てたい生徒像」について、今回協議していただいて、それを踏まえて、ただ今のご意見の特色ある学校づくりについて資料を提示し、次の機会にご協議いただきたいと考えております。

委員

それでは、特色ある学校づくりについては、次の機会に議論するというので、「目指す学校像」、「育てたい生徒像」については、この方向で進めたいと思います。

### 設置学科及び「総合選択制」など併設のメリットについて

委員

総合選択制など、工業科、総合学科併設のメリットについて説明がありましたが、このことについて、ご質問ございますか。

委員

相互の学科の科目選択ができるということでしたが、入学した段階の1年生から選択できるのでしょうか、それとも、途中の2年生、3年生から選択できるのでしょうか。

事務局

工業科、総合学科ともに、1年生のときは必修科目を中心に勉強します。2年生または3年生から、大学進学を目指す工業科の生徒が、工業の専門科目を減らして進学のために総合学科に開設されている普通教科の勉強をする。あるいは、総合学科の生徒で工業科の科目に興味を持った生徒が、工業科の科目を選択する。このように、基本的には、2年生以降に総合選択制により選択幅を広げていくことを考えております。

また、両方の学科の生徒が選択する総合選択科目には、それを単体で学習することで、ある程度の教育効果が期待できる科目を選ぶ必要があります。そのため、工業科の全ての科目を総合学科の生徒が選択できるということではありません。

委員

途中で希望が変わる子どももいます。例えば、2年生や3年生の段階で就職から進学に希望が変わった場合にも、総合選択制で対応できるのでしょうか。

事務局

例えば、2年の段階までは就職を考えていた工業科の生徒が、3年になって大学進学に進路変更した場合、3年生が選択できる普通科目を履修することが可能です。その場合、2年から準備していた生徒よりは、若干普通教科の力は落ちるかもしれませんが、その分専門科目の力がついておりますので、専門学科枠を利用した大学進学という方法もあります。

委員

進路は早い段階で決めるのが理想ですが、子どもが成長していく段階で進路変更することがありますので、できるだけ対応できるようにしてほしいと思います。

#### 事務局

今後、対応について検討させていただきたいと思います。ただ、工業科については、専門科目を25単位以上修得という制約がありますので自由度には制限がありますが、工業科単独の場合と比較すると、進学対応しやすいシステムであると考えております。

#### 委員

工業の専門科目を25単位とって、他は総合学科の単位を取った場合も、卒業証書は工業科卒業となりますか。

#### 事務局

工業科卒業となります。

#### 委員

現時点で阿南工業高校の生徒と新野高校の生徒を合わせて600名ぐらいで、富岡西高校、富岡東高校の1校より少ない現状があり、今後少子化になりますが、新しくできる専門的な学校の規模が何人になると想定して、このような計画を考えているのでしょうか。選択できる多くの科目を考えているのはいいのですが、科目数が多すぎて、選択する生徒がいなくなることもあると思います。今年は選択希望者がいなくて、次の年は希望者が1人いた場合、当然教員は必要なわけですが、人材確保という面で予算等は大丈夫なのでしょうか。

また、企業への就職とおっしゃっていましたが、企業の方の受け入れ体制について、どの程度まで了解といたしますか、話し合いは進んでいるのでしょうか。

#### 事務局

学校規模に関しましては、今の時点では、開校時の生徒数は200名程度と考えております。ただし、生徒の進学希望などにより定員を決めますので、その通りにならない場合もあります。

#### 委員

1学年200名を想定して、生徒が希望すれば、できるだけ多くの科目を設定したいということでしょうか。

#### 事務局

できる限り生徒の希望に添うように工夫はしていきますが、教員数や教室の施設の制限などがありますので、開設できる講座数にも制限があると考えております。そのため、1名でも希望者がいれば、その講座を開講できるという状況にはならないと思います。例えば、最低規模を10名とした場合には、10名以上希望者がいるから開講できるというようになると思います。

#### 委員

科目の設定については、分かりました。学校規模は、1学年200名、合計600名ということですね。

#### 事務局

200名については、現時点でそう予想しているのであって、開校は何年か後になりますので、人口移動のこともありますし、子供の進学希望がどう変わっていくのかも分かりませんので、あくまでも目安ということで、ご理解いただけたらと思います。

#### 委員

この協議会としては、200名規模が確保できるような高校のあり方を考えなければならないと思います。

## 委員

もう一点の企業の受け入れについて、見通しはどうでしょうか。現状では、阿南工業は、100%就職できているように聞いています。また、県全体としては、10月の時点では就職率は、7割程度だったと思うのですが。

## 県教育委員会

卒業までには、就職率は9割を超えますが。まだまだ、厳しい状況となっています。

## 委員

新しい学校は、進学もありますが、即戦力の育成という視点を持って考えておりますので、企業は何を学んだ生徒を必要としているのかを考える必要があります。そのため、高校卒業後の出口を考えなければならぬのですが、前任校で、「土木科」という学科を新しく「都市システムコース」という名称にしたところ、「都市システムコース」では、何を勉強しているのか企業が理解しにくいと、とたんに就職が悪くなった経験があります。企業がこの子は何を勉強してきたのか、専門性はなんだろうかを理解できずに、就職が悪くなることも危惧されますが、その辺はどう考えているのでしょうか。

## 委員

申し訳ありませんが、進路については、後で議論する機会を取りたいと思いますので、まずは、総合選択制のことについてお願いします。

## 委員

2学科を併設した場合、総合選択制というメリットがあるということは理解できるのですが、新しい高校ができるという期待感からすると、現在の2校の工業科と総合学科をそのまま併設することに、何か物足りない感じがします。

2点伺います。説明を聞くと工業科の場合にも、進学にも就職にも対応できるようになるということが分かりましたが、1点目は、学科の設置において、総合学科は、進学と就職に対応できるように考えられた学科であるので、総合学科の中に工業科を工業系列として包含していくということができないのでしょうか、もうひとつは、当初2キャンパスでいくとお聞きしていると思うのですが、距離的な問題もあるのに、2つのキャンパスで総合選択制がうまくまわっていくのでしょうか。

## 事務局

実務者会議において、総合学科の中に工業科を工業系列として含んでいくかどうか、ということについても議論しましたが、総合学科の中に工業系列を含むのではなく、工業科として併設するという方向で提案させていただいております。

現在、阿南工業高校は、類・コース制をとっており、生徒を一括募集して、1年で各コースに共通する基礎科目を全員が受け、2年から各コースに分かれて専門教育を受けるというシステムをとっておりますが、入試の段階からそれぞれの専門分野に分かれて募集し、1年生から本格的に専門科目に取り組み、もっと高い専門性を身につけた生徒を育てる方が、資格取得や就職において有利であるということから、今回は小学科制の工業科を提案しておりますので、それが新しい学校の教育として相応しいかどうかについて、ご協議をお願いいたします。

また、第2点目の2キャンパスでいくということについては、まだ議論させていただいておりませんので、決まっていないという認識で、ご協議をお願いします。

## 委員

キャンパスは1つにしないと総合選択制はやりにくいと思います。総合選択制を生かすためには、キャンパスを1つにするということが前提になるのではないのでしょうか。

事務局

新しい学校の教育に総合選択制を取り入れると決まりましたら、その後、設置場所についての議論をするときに、1つのキャンパスにする方が良いというご意見としていただけたらと考えております。

### 工業科の小学科と総合学科の系列について

委員

まず、工業科の小学科・コースと総合学科の系列について、ご意見をお願いいたします。

委員

工業科は機械科、総合学科は系列と異なっており、違和感を感じますが。

事務局

工業科では、入試の時から機械科で募集し、機械科の生徒は決められた科目の学習をしていくこととなります。科は同じ専門科目を学ぶ生徒の集まりとなっています。

これに対して、総合学科の系列は、生徒の所属する集団を示す学科やコースとは異なり、科目の集まりです。数学と理科の教科を合わせた科目の集まりの名称が、自然科学系列です。人文芸術系列は、国語や外国語、社会、音楽・美術・書道の科目の集まりであり、情報ビジネス系列は商業と情報の科目の集まり、生物資源活用系列は農業を中心とした科目の集まりです。

例えば、理系大学進学を目指す生徒は、自然科学系列から数学と理科の科目を選択し、人文芸術系列からは英語の科目を選択することになります。国公立大学に行くのであれば、その他にも人文芸術系列に含まれている社会を選択することになります。この様に、一人の生徒が、複数の系列から科目選択をするようになります。

総合学科では、自由に科目選択をできるように工夫されておりますが、何をとったら自分の進路に役立つのか、生徒たちに科目選択の目安を示してやる必要が生じてきます。理系に進む生徒の科目選択の目安として自然科学系列が考えられています。この様に、系列に関しましては生徒の履修の目安となるように考えられたものであり、学科とは根本的に異なっております。

委員

それでは、総合学科は一括募集といたしますか、くくり募集するのでしょうか。

事務局

はい、総合学科全体で一括募集することになります。

委員

今回の提案は、これまでの類・コース制について、検証された上で新しい方策を考え出されたと思いますが、中学生の中には、工業科に進みたいけれども、具体的に電気科がいいのか、機械科がいいのかについては分からない生徒がいます。そのため、流れとしては、工業科で一括募集をして、1年生で基本的な電気とか機械とかについて勉強するなかで、2年生から電気科だ、機械科だというふうを選択するようになっております。あえて流れとは異なる小学科に設定したのはどうしてでしょうか。教育委員会としては、どう検証されていますか。

県教育委員会

今回の提案につきましては、阿南工業高校と新野高校の先生方のご意見を踏まえて、事務局において協議しました。それぞれの学校の先生方が協議されて、総合学科は一括募集、工業科は小学科毎に生徒を募集したいということになっております。

工業科の小学科制については、阿南工業高校の検証に基づいて提案されておりますので、ご説明をお願いできますか。

#### 委員

提案理由の一つには、定員が多いときは、一括募集で2年生から好きなコースへ分かれるという類・コース制で各コースのバランスがとれていたのですが、生徒数の減少により、現在はアンバランスになっていることがあります。

もう一つの理由は、例えば電気ですと、第三種電気技術主任者の認定校になっておりますが、類・コース制では、1年で工業の総合的・基本的な勉強をした上で、2年から電気の専門的な学習をすることになりますが、小学科制にして、それを1年から電気の勉強ができるようにして成果を上げたいと考えています。また、目的意識をきちんともった生徒を集めたいということから、今までの類・コース制から小学科に変えたいと考えています。また、現在は4コースありますが、今回の統合に向かってコースを整理した上で、小学科にしたいと考えております。

#### 委員

高校入試の面で、進路指導をされている中学校の立場に立つと、くくり募集から小学科にすることは適切なのでしょうか

#### 委員

高校において、資格取得などを目指しているいるとやらなくてはならないことがあり、選択を遅らせるほど大変だということは理解できますが、阿南工業高校には、昔は科がたくさんあり、小学科で募集していたのですが、そのことに中学生が対応しきれずに、不適應を起こして、「代わりたいたい、嫌だ」という状態になって非常に苦労したこともありました。そのため、高校は普通科に進学しておいて、進路についての考えができた後で専門教育に進もうという考え方もでてきたりしました。確かに中学校の進路指導が十分カバーできていないという反省点はありますが、実態からすると、現在の類・コース制で一緒に入って、機械、電気、土木など全部勉強した上で、自分はどのコースに進んでいくか考える方がいい、私の感じではそう思います。

阿南工業高校で、いろいろデータとか調べられているのでしたら、私も教えていただきたいと思いません。

#### 委員

今、言われたように、高校入試の進路指導の時には、自分が何にむいているのか、本人も親も分からないこともあると思います。新野高校の総合学科の説明でも、分かったようでなかなか理解してもらえない面も、現実にあると思います。そういう面では、現在の様なくくり募集でした方が、高校1年生の間に徐々に周囲の先生の指導とか環境とかで、私はここにいてみようというようになると思います。

そのことも含めて学科の編成を決めて、説明していかないといけないと思います。バラエティにとんだ学科があるけれども、それだけで魅力を感じるかどうか、だいぶ検討する必要があると思います。

#### 委員

今のご意見はその通りで、我々としても、高校の先生方と連携しながら色々教えてもらって勉強しています。単位制から総合学科、工業科いろいろ勉強しながら中学生に説明していくのですが、我々にも十分に理解できていないところがあり、また、保護者や子供の方にも、受け入れ体制として十分でないところがあります。だから、生徒を集めるためには、理解しやすいもの、大きな光のようなものを、ぱっと打ち上げてあった方がいいと思います。内容が複雑になって専門化して細分化されて難しくなって、なかなか理解できなくて、その良さも分からなくて、敬遠してしまうこともあると思います。

#### 委員

進学指導の話が出てきていますが、現在は、専門高校より普通科高校を志望する生徒のパーセンテージが高い、専門的な分野に進みたいのだけれども、いったん普通科へ行ってからという生徒が多いと思います。

工業も商業も農業もある程度の規定のなかで進学にも対応しています。今回できる徳島科学技術高校も進路について、進学への対応をかなり打ち出しています。そういった面から考えて、説明にあった「大学進学を目指す工業科の生徒が……」というのを前面に出してもいいと思います。また、定員200名にこだわるのではなく、普通科の生徒も取り込めるような形をとっていく方法を考えることが大切だと思います。工業科や総合学科に行っても大学に進学できるという、うたい文句的なものを全面的に出す方がいいと思います。この案は、万遍なくていいのですが、こんな特徴があるんだというインパクト的なものが不足していると思います。今度の新しい学校の特徴はこうなんだという、うたい文句を打ち出したら、より一層いいのではないのでしょうか。総合選択制を生かした進路指導を前面に押し出すなど、今回の提案内容の順序を入れ替えて宣伝効果を高める表現にしたらと思います。そういった点で、また、新野高校や阿南工業高校の実績もあるので、普通科だけではなく、新設の高校から大学に行けるんだということも、特色として前面に打ち出してみてもいいのでしょうか。

#### 委員

この前、「変わりゆく専門高校」という新聞記事で、「就職難で進学者増」という見出しになっていたのですが、必ずしも就職難というだけではなく、将来の自分の進路を考える上で、さらに勉強していく、一生勉強していくという考え方もあると思います。専門高校でも、進学をもっと前面に出してもいいと思います。

#### 県教育委員会

前回の論点整理の2点目にもありますように、「普通科高校としては、富岡西高校と富岡東高校を残すこととなっているため、技術者や職業人としての視点を持って考えていく必要がある」というご意見をいただいています。地元阿南市は工業の盛んな地域であり、電気関係の就職先もあるということを踏まえて、工業科では、専門的な人材を養成するというはっきりとしたコンセプトで、今回、小学科制をとっております。

一方、高校に入学した段階で進路についてまだ迷ってる子供たちに、進路指導した上で将来の進路を選択させるという観点から総合学科を提案し、統合のメリットとして従来より系列を増やして選択幅を持たせるというコンセプトで、事務局案が考えられているように聞いています。

また、工業科を小学科制で行うと進学に不利になるという心配もありますが、併設される総合学科の自然科学系列・人文芸術系列には普通科の科目が用意されており、工業の一定の科目を取りながら大学に進学したい工業科の生徒も、総合選択制を利用していけば、進学対応も可能になると考えており、進学をおろそかにしたということではないと思います。

#### 委員

それを保護者に説明する場合に、インパクトを与えられるような表現方法が必要と思いますが、後で、特色ある学校ということで話し合っていくことにします。ところで、総合学科の「系列」を「系」または「科」とした方が分かりやすいと思いますが、その様にできるのでしょうか。

#### 委員

私は系列でいいと思います。自然科学系の科目の集合として作っていると考えると、自然科学系列でいいと思います。また、今回出されている案は、よく練られていると思います。選択肢が広がった総合学科もあるし、工業科は専門的なことが最初から勉強できる、高校卒業であっても中途半端ではないんだということも、逆に企業にアピールできると思いますし、また、専門性を身につけることで、卒業した時に学生が自信を持てると思います。

ご理解いただくために、系列という表現が科目の集合という説明文をつけたら、パンフレットを見た時に理解していただけるのではないかと思います。

#### 事務局

工業科の小学科は機械科など「科」と決まっているのと同じように、総合学科につきましては、全国的に「系列」と決められております。徳島県だけ「系」や「科」にすることは難しいということでご理解いただきたいと思っております。なお、ご指摘のように、系列の説明のために注釈をつけることは有効と思っておりますので、採用させていただきたいと思っております。

#### 委員

逆に、工業科の方を「機械科」ではなく「機械系列」とかにしたら、真新しいような気がするのですが。

#### 事務局

従来からある名前の方が企業にも、中学生にも分かりやすいと考えております。そのため、シンプルで分かりやすい名前である機械科、電気科など、誰が聞いてもイメージがぱっと湧くような名前にさせていただいております。

#### 委員

学科についてですが、高齢化社会の中で福祉分野の人材の育成が求められていますが、県南で福祉の人材を育成するような高校の学科がないので、それができないでしょうか。また、生物資源活用系列の中で農業教育がうたわれていますが、日本の将来を考えると農業は大きな役割を持つ、あるいは、大きな課題となってくると思っております。環境面とか、食料の供給とか、農村文化の維持とか、色々観点はありますが、農業経営者の育成という視点をもう少し強く出せないかなあという感じがします。進学や就職に対応するだけの農業の勉強だけではなく、将来に向けて農業経営をやっていける人材を育成していくんだという視点が必要ではないかという感じがします。そのあたりは、どうでしょうか。

#### 事務局

福祉分野において人材育成が必要となっておりますので、実務者会議のなかでも福祉教育について議論しましたが、新しい学校でメインとして福祉を打ち出していくよりも、情報ビジネス系列を打ち出していきたいということになりました。提案しております4つの系列をたたき台として、ご意見をいただきたいと思っております。また、県南という捉え方は人によって幅があると思っておりますが、小松島西高校に福祉科があり、阿南市地域から、通学が可能と考えております。

#### 事務局

農業教育については、県下的にも農業科単独校がなくなるという状況もあり、縮小されていく傾向があります。新野高校についても、農業科と普通科を総合学科に再編した経緯があります。

ご質問の農業経営者を視点においた教育ができないかということについてですが、総合学科の生物資源活用系列の農業科目をしっかりとって、農業に関してたくさん勉強して、大学など上の教育につなげていくことが後継者の育成につながると思っております。今、高校卒ですぐ農業に従事する生徒は、ほとんどいない状況でありまして、完結の教育ではなく、継続教育ということで農業に興味・関心を持たせて、さらに上級学校につないでいくという観点で農業自営者の育成ができるのではと考えております。

#### 委員

特色ある教育については後の議論になるということですが、新しい高校ができるんですから、福祉とか農業経営者の育成なども含めて、議論を進めていただきたいと思っております。

#### 委員

科やコースがありますが、それぞれの科の望ましい人数というのは何名なのでしょう。1学年200名というものを想定してコースや科を作ったときには、制限があると思っております。例えば、工業科は機械科、電気科、建設科とあるわけですが、それらの科は数字的にはどのくらいまでがゆるされる範囲になるのでしょうか。



## 県教育委員会

法律では、1学級40人という規模を基準に、教員が配当されております。例えば、電気科が1クラスであれば40名、2クラスであれば80名が標準です。しかしながら、本県では、生徒数の減少とか地理的条件などがありますし、工業科、農業科でしたら実習等で大人数ではやりにくいということなどにも配慮しながら、1クラス30人から35人で学級編成している現状となっております。

## 委員

今、大切なのは生徒の多様化している教育ニーズに対応していくことですが、くくり募集の場合には、入学して1年生で基本的なことを勉強した上で、2年生からは機械コースに進みたいと決めていくことになります。問題なのは、コースの希望者数に偏りが生じてくることです。生徒のニーズを活かすためには、各科の希望者が20名でも10名でもいいのですが、そうすると教員が足りなくなります。電気科の生徒が増えたら電気科の先生が必要となるのですが、1年ごとに教員数を変えて対応していくことはできません。そこで、現実的には、40名と20名になった場合には、第2希望をきいて、35名と25名とかにクラス規模を調整している現状があります。予算、教員配置の問題があり、細かなところまで生徒のニーズに対応できていない現状があります。

## 委員

くくり募集(一括募集)か小学科かということについてですが、工業は小学科毎の募集で、総合学科はくくり募集で進めてよろしいでしょうか。

## 委員

中学校サイドから言いますと、小学科でいきますと先程の授業選択の調整と同じようなことを受験の時にせざるを得なくなります。例えば、機械科と電気科があって、機械科40人のところを60人志望があって、電気科は20名しか志望がないときには、そのままいけば自由受験でいいんですが、明らかに何十名かが不合格になるので、そうならないように相談したり検討したりすることが必要となってきます。

## 委員

どちらの科にするか悩む生徒は大人数ではなく、少ない人数と思います。私は、逆に、こういう勉強がしたいという目的を持った生徒が多いと思うんですが、今のシステムですと1年生では共通する全体的な勉強しかできないことになり、早い時期から、1年生からコンピュータの専門的な勉強がしたくてもできない状況となっています。そういう目的意識を持った生徒を育てたいということで、今回は、類・コース制から小学科でいきたいという案を出しています。また、生徒数減もあって類・コース制では、コースの人数を調整しにくくなっている現状もあります。

## 委員

我々としては、不合格となり生徒を泣かせたくないですから、合格してもらいたいですから、進路指導においては志望校の変更の話をかなりしますので、高校に入ってからの不適應とか、進路指導不適切とか、無理矢理勧められたとかにつながることもあります。その点で、くくり募集にして、子供たちが入ってから勉強して自分の進路を見つけていく方法をとっていただき、このコースは40名、別のコースは20名という偏りがあっても、できる限り希望を生かすように教育してくださる方が有り難いと思います。

## 事務局

類・コースのいいところはミスマッチの解消にあります。一方、専門性が薄れる欠点があります。一方、小学科のいいところは1年生から専門科目の学習ができることですが、欠点としてはミスマッチがおこる可能性があるということです。小学科をとっても、そのミスマッチの部分を解消する方法を工夫していくことで、カバーできるのではないのでしょうか。また、現在、非常に就職状況がよく、専門性の高い生徒に対するニーズがありますので、専門性の高い生徒を育成したいというのが事務局の考え方です。

委員

小学科で環境とか防災とかについても、学ぶということはできるのでしょうか。

委員

縮小していかなくてはならないという状況の中で、環境や防災に関する小学科を持つことは難しいと思うのですが、現在でも、環境については「地球環境化学」という科目の中で学習できますし、防災関係についても、学校設定科目として取り入れることは可能だと思います。

委員

先ほどの福祉に関してもそうなんですけど、コースや科で置くか、それとも、教育内容に盛り込むかの選択だと思います。工学系の人で、福祉にも造詣の深い方もいらっしゃいますし、教育内容の科目立ての段階で、どういう科目を置くのか考えたらいいのではないのでしょうか。

委員

それでは、専門性が薄れることにならないのでしょうか。

委員

それは専門性を最優先する人の場合に限られると思います。例えば、工業科の場合は、卒業するために専門科目25単位は確保していますから、それ以外のところで、普通科とか、あるいは、福祉とかという勉強をすることも可能となります。

委員

総合学科の場合でも、同じ様に系列(農業系列)の中から「環境科学基礎」などの科目を選択して、環境について勉強することができます。

委員

専門科目が25単位必要ということですが、卒業までには合計何単位必要になるのでしょうか。

事務局

卒業には、最低74単位必要です。

委員

それでは、卒業単位の3分の1専門科目をとってれば、専門学科の卒業生となるということですね。

委員

卒業には、最低74単位とればいいのですが、学校によっても異なりますが、実際は87単位程度はとっています。専門科目ばかり選択している生徒は、専門科目を40単位ぐらいとっていますので、25単位との差である15単位ぐらいは、大学進学のための科目をとることも可能になります。

## 教育内容について

委員

新しい学校は、工業科と総合学科なのですが、どちらを先に並べるんですか。

#### 事務局

並べる順序でいいますと、学習指導要領(高等学校設置基準の誤りでした)の順番からすれば、工業科、総合学科の順になると思います。

#### 委員

内容的に言えば、総合学科の方を先に並べるのが、新しい学校の理念としていいように思いますが。

#### 委員

城西高校は、どうなっていましたか。

#### 事務局

城西高校に勤務しておりましたが、その時には、農業科が先でした。基準として、農業に関する学科とか工業に関する学科とか専門学科の中にも順序がありますが、総合学科はその専門学科の後になっております。ただし、パンフレットとか広報する時については、高校が決定することになると思います。

#### 委員

新しい学校のイメージ、キャッチフレーズとして打ち出す時に、例えば、今日の話に「ものづくり」というものがあるんですけども、今のところでは、「総合選択制」と「ものづくり」、「企業家、起業家」そのあたりが一番大きな打ち出すものだと思います。「総合選択制」という観点から、総合学科が先にいったらいいのではという気がします。

#### 委員

総合選択科目のところ、工業科から、総合学科から、いろいろ科目が出されていますが、両科の生徒が選択できる共通科目として「育てたい生徒像」のところにあるボランティア活動に関する科目や、先程話がありました福祉とか環境とか、共通となるベースになる科目をこの学校の特色として置いていただいて、その上に原案にあがっていた科目をおいていけば、内容が充実すると思いました。

#### 委員

ただいまのご意見の「育てたい生徒像」にあげられている項目に関係する科目を共通科目とするということも大切であると思います。

それでは、新しい学校では工業科と総合学科を併設して、総合選択制を取り入れ、併設のメリットを活かした教育を展開していくという方向性でよろしいでしょうか。

#### 事務局

工業科に関しましては、くくり募集にすべきであるというご意見と小学科にして1年の時から専門的な教育を開始し、進路指導もきっちりするというご意見がありましたが、どちらの方向で進めていくか、確認していただけたらと思います。

#### 委員

関連ということで、新しい徳島科学技術高校はどうなるのでしょうか。

#### 事務局

徳島科学技術高校は、1学年300名程度の高校となりますので、工業科と水産科合わせて6つの類を考へており、類ごとの生徒募集としています。総合科学類、海洋科学類、機械技術類、電気技術類、建設技術類、海洋技術類の6つの類がございますが、類毎に入試をおこなって、機械技術類に合格した生徒は、2年生から機械コースと生産システムコースに、電気技術類であれば、電気コースと情報通信コースに分かれて専門的な学習に取り組んでいきます。

## 県教育委員会

徳島科学技術高校は、学校規模が大きいので、科ではなく類と呼んでいますが、6つの類毎に生徒募集いたします。阿南市地域における新高校の設置学科案においては、機械科が制御システムコースとものづくりコースに分かれています。機械科、電気科、建設科に分かれて募集することになっております。

## 委員

大学で勤務していますが、高校で3年間しっかり勉強して大学を選んでいると思いますが、いざ大学に入ってみると自分とは合わないということが起こっています。社会人になってからでも、この道はどれも自分に合わないということを迷う人はいらっしゃると思いますので、迷うことはあってよいのだと思います。そういう人には、自分の道がまだ決まっていなくても、総合学科で勉強して、どんな分野で関心を持てるかを勉強していく機会が準備されていると思います。

一方、工業科において、これをやりたいと興味を持っている子どもを伸ばしていける場があることは、とても大事だと思います。さらに専門性を高めたいと思う子どももいれば、自信を持って就職していくという子どももいていいと思いますので、私は入学時から専門的に学んでいくことに期待をしたいと思っております。

## 委員

事務局の提案に賛成というご意見でした。ミスマッチがあって進路変更するような生徒がいないようにしていくという面で課題は残るんですが、工業科については、事務局から提案されております小学科制でいくという方向で進めさせていただけたらと思いますが、どうでしょうか。

## 委員

今の話を聞いていますと、大学入学の発達段階になってまで、こういうミスマッチがあるのに、ましてや中3あたりでは当然ミスマッチがでてくると思います。小学科制で専門性を高めていくことは、大事なことだと思います。現実的には、大学進学を希望する生徒が多いことを考えて総合選択制も必要だと思いますが、あまりにもそこに焦点が、光が当たりすぎていますと、専門性の方が若干薄まってしまうのではないかと思います。

## 委員

両方とも、それぞれねらいがあってもいいんですけども、なかなかどちらがいいというのは言いにくいですね。

## 委員

中学校サイドの十分な教育ができていない反省も込めてですけれども、3年後どういう進路に進むのかということを考えて高校進学の見学指導を一生懸命していますが、現実の場合には、富岡東高校、西高校に成績優秀な生徒が進学して、次の段階の生徒が職業科を希望するといったケースがあります。学力のある生徒は、目的というか進路を決める必要がなくて、普通科高校でいろいろ考えながらゆとりを持って3年間を過ごし、次の段階で専門学校なり大学を検討していくこととなります。ところが、その以前の高校進学の見学段階で、学力的に次の段階にあたる生徒が職業科を受けるケースがあり、その子たちは、高校でここに入ったらこの道しかないとなると非常に辛い面もあり、現実の問題として難しくなると、私は感じています。

## 委員

厳しい現実ではありますが、どうしても決まらない場合は、総合学科へ入学してもらって、1年生で進路について考えて、2年生から選択科目を決めていくという方法もあります。

委員

普通科に進学できなかった子どもが、職業科に進学しているのでしょうか。

委員

すべてそうなのと言っているわけではありません。中学校段階において成績が優秀な子が、普通科の高校を目指す傾向があるということです。

委員

そのような考えを持つ必要のないような新しい高校の姿というものを作っていけばよいのではないのでしょうか。例えば、ヨーロッパでは、職業のプロフェッショナルとしてのプライドをもち、目的意識をもって、進学はしなくてもこの技術は習得するんだというようになっています。理想論で道は険しいかもしれませんが、職業として、プロフェッショナルとしてのプライドを持てるような高校、そういう高校の姿を私は希望したいと思います。

委員

その通りだと思いますが、社会や企業の受入れ体制の問題などを解決するというか、良い環境をつくっていかないと、現実問題として難しいのではないのでしょうか。

委員

何が、一番難しいですか。

委員

やっぱり、子どもたちが将来、矛盾のある現代社会をどう生きていくかということではないのでしょうか。例えば、農業に関しても、日本の食料の自給率が40%以下になってきたことに対して、国が対応した政策をださないと、農業従事者が職業として成り立たないという問題などは、生徒の段階ではないと思います。

委員

社会の厳しい状況はありますが、新しい理想の学校を求めて、社会の厳しさに負けないような強い人間に育てていくということでなければならぬと思います。

何か他にございませんでしょうか。それでは、次回の地域協議会では、今回の議論を踏まえて、地域連携や学校間連携、特色ある教育について、また、設置学科まで話ことができましたので、設置場所も含めた教育環境の整備のあり方についても協議できたらと考えています。

工業科の小学科制については、色々な意見はありましたが、原案どおりとするということによろしいでしょうか。それでは、ミスマッチへの対応については、さらに検討を進めていただくということで原案どおりにさせていただきます。次回も事務局に資料を準備していただいて、それをもとに議論していくこといたします。